

て研究致します方法の事は別段此所に必要はござりませぬから、姑く實際上の方から見れば斯う云ふ種々の方面から研究して行く事の出来るもの云ふだけの御話をして置いて宜いと思ふ。

(以下次號)



ローランド夫人 (つゝき)

鄭越 生補譯

山嶽黨人は、更に進んで悉く反對黨殊にギロンド黨を撲滅し、以て己れ獨り全權を握らんとす、

然れども正義亡びたるにわらず、自由地に落ちた

るにわらず、之を以て、俄かに反對黨を糺弾し、訴追し、而して處罰せんか、反對黨員の抗議を惹き起し竟に人心自黨を去るの結果に到達せんも未だ知るべからず、されば速に其の目的を達せんには、一擧してキロンド黨員を屠り盡し、以て抗議の出づる處を梗塞し、人心兢兢之を正義に顧るの違なく、突として事局を了し終らんに若かずとなし、即ち密に計を立て、曰く、反對黨員の議院にあるに乗じ、急に出で、之を襲殺し盡くすべし、四月十日の夜を期して之を實行せん。

時は維れ四月十日の夜、暮色漸く蒼然たるのとき、山嶽黨員はジャコピン俱樂部に集會し、囂々として議すること多時、竟にノートルダム寺院の警鐘を機として、隠謀を決行することなし、部伍を整へて、俱樂部を出發す、劍は腥く人は殺氣

を帯ぶ、キロンド黨員の運命、此に至りて風前の燈火に似たり、恐らくは滅盡せずんば止まざるべし。

茲にジャコピン俱樂部の近隣に住めるキロンド黨員にルーベールと云ふものあり、此の夜その妻女は、圖らず、敵黨の恐るべき密計を探知し、直に事の急なるを、その良人に告ぐ、ルーベール蒼惶措く處を知らず、即ち警報を同黨員に與へんとし、先づルーベールを訪ひ、具さに事の情を述べ、且つ警告するに速に逃避すべきを以てす、ルーベールは蓋しギロンド黨の領袖なり、冷然瞑目一語の答ふる所なし、既にして窓を開きて天を候ひ、徐ろに嘔つて曰く

雨が降つて居ます、今夜は別條はございませぬ、嗚呼何等の沈勇ぞや、凡そ士人に尊ぶところ

のものは。其の終を潔くすることなり、ルーベール情報を得て、竟にその逃避すべからざるを知り、自ら決して謂へらく逃ぐるも死し、逃げざるも死す、寧ろ事の迫るにあたり、縦容として死なんのみ、身は堂々たる大政黨の領袖なり、辱を道途に曝すが如き、死後の汚辱之より大なるはなしと、唯その降雨を以て云々したるもの、特にルーベールの好意に酬ひんため、之を云ひ倣したるのみ、嗚呼何等の沈勇ぞや、凡そ大丈夫として、天下に立たんとするものは、常にしかく沈勇ならざるべからず。電光閃き爆聲耳を劈く、笑つて之を迎へんのみ、彼の人情の冷熱に、小人の毀譽にだに或は悦倒し或は股栗せんとするあるが如き、畢竟大事を語るに足らざるなり、語を寄す、世の婦人よ、漫りに細節小禮を以て、其の愛子を傷ふことを

すると止めよ、須らく大ならしむべし、之を豪
大くして國家に寄附せよ、之れ殊に茲に余輩の切
望し置くところなり。

是より先、事政府に聴ゆ、即ち此の夜陸軍大臣
は非常訓令を與へ、市中を警戒し、彼等をして容
易に手を下さしめず、加ふるに急雨風とともに來
る、之を以て暴舉遂に行はれず、キロンド黨員の
運命をして、一時を長うするを得しめたり。

翌日の議會に於て、圖らず密謀に關する問題沸
起し、ギロンド黨員の熱心なる論辯により、山嶽
黨員亦漸く動くところあり、竟に十二人の委員を
擧げて、その密謀を調査することに決す、その調
査進行の結果數名の山嶽黨員は、逮捕せられ、獄
に投せらるゝに及びたれば、山嶽黨員一般の激昂
云ふべからず、しばし威嚇的請願書を議院に提

出し、調査委員會を解散し、嫌疑者を釋放すべき
を強求せしが、五月二十七日に至り、その實行を
強迫せんがために、大舉して議院を圍み、武器を
携へて院内に闖入す。

之に至り正義は絶滅して不正は横行し、議院は
神聖を失ひ人は自由を奪はる、是れ實に佛國革命
の大回轉なり、佛國人民は正義を得んとして、却
りて不正を得たりしなり、自由を得んとして、却
りて壓制を得たりしなり、情熱の趨向するどころ
誠に奇にして妙ならずや。

(以下次號)

かゝる時こそ命の惜しからめ
かれてなき身とおもひしらすば